

【耐震診断結果】（平成 24 年 4 月 1 日現在）

学 校 名	建 物 の 概 要					耐 震 診 断 結 果			備 考
	区 分	構 造	階 数	建 設 年 月	面 積 (㎡)	優 先 度	I _s 値	q 値	
生田原小学校	校 舎	RC	2	S54.11	3,080	⑤-1~2	0.817	—	耐震性能あり
	体育館	S	2	S54.12	777	④	0.740	1.37	要補強
安国小学校	校 舎	RC	2	S56.2	2,072	⑤-2~3	0.481	—	要補強
	体育館	S	2	S56.12	853	④	0.770	1.44	要補強
東小学校	校 舎	CB	2	S43.12	533	①	—	—	※老朽化
南小学校	校 舎	RC	2~3	S52.12~ S54.1	3,534	④-2~ ⑤-2	0.822	—	耐震性能あり
	体育館	S	1	S54.11	864	⑤	0.850	1.55	H23 補強済 耐震性能あり
瀬戸瀬小学校	校 舎	S	2	S45.10	958	②	—	—	※老朽化
	体育館	S	1	S45.10	335	③	—	—	※老朽化
丸瀬布小学校	体育館	S	2	S52.11	989	④	0.66	1.19	要補強
白滝小学校	校 舎	RC	2	S51.12	1,849	⑤-1	1.120	—	耐震性能あり
	校 舎	RC	1	S51.12	304	⑤-4	0.819	—	耐震性能あり
遠軽中学校	校 舎	RC	1~3	S51.3~ S52.5	5,117	④-1~2	0.385	—	要補強
	体育館	S	1	S52.9	1,067	③	0.160	0.50	要補強
南中学校	校 舎	RC	3	S55.10	2,414	④-2	0.338	—	要補強
	校 舎	RC	1~2	S55.10	1,354	⑤-1	0.964	—	耐震性能あり
	体育館	S	1	S55.10	1,062	⑤	0.440	1.35	要補強
白滝中学校	校 舎	RC	2	S46.11	1,372	③-1	0.290	—	要補強
	校 舎	S	1	S56.9	464	—	0.218	0.869	要補強

【用語の意味】

- 〈構造〉 RC＝鉄筋コンクリート造 S＝鉄骨造 CB＝コンクリートブロック造
- 〈優先度〉 耐震診断を行う優先順位を決める優先度調査の結果を表したものです。
- 〈I s 値〉 建築物の耐震性能を判断するための数値（構造耐震指標） 国土交通省では、下表のとおり 0.6 以上としています。地震力に対する建物の強度及び靱性（変形能力、粘り強さ）が大きいほど、この数値も大きくなります。

I s 値の目安（平成 18 年 1 月 25 日 国土交通省告示第 184 号による）

- $I s < 0.3$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い
- $0.3 \leq I s < 0.6$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある
- $0.6 \leq I s$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い

※I s 値の目標値は、鉄筋コンクリート造では 0.6、鉄骨造では 0.7 以上とされています。

- 〈q 値〉 地震による水平方向への力に対して建物に対応する強さを表す数値（保有水平耐力に係る指標） 鉄骨造では 1.0 以上が目標値とされています。

※建物の耐震性の有無は I s 値・q 値が上記の数値を満たしているかで判断しますが、数値を満たしていても建物の構造や形状によっては、補強等の必要となる場合があります。